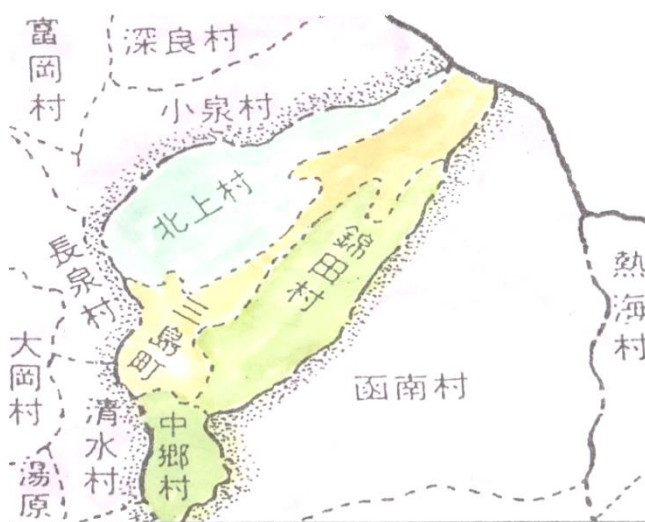


■錦田年表

1603 (慶長8)	妙法華寺移転により、地名が大木沢から玉沢(澤)にかわる。
1618 (元和4)	箱根宿がつくられ、このころ坂の五ヶ新田が成立する。
1889 (明治22)	錦田村が誕生する。
1929 (大正9) 1月16日	豆相鉄道の機関車からの飛び火により、中から夏梅木まで火災となる。
1930 (昭和5) 11月26日	北伊豆震災発生。錦田村では7名死亡、54名負傷、81%の604戸が全半損した。
1941 (昭和16) 4月29日	錦田村と三島町が合併して、県下で6番目、人口33,533人の三島市が誕生する。
1981 (昭和56)	史跡山中城跡公園が完成する。
2009 (平成20)	伊豆縦貫道塚原ICが開通する。
2014 (平成25)	伊豆縦貫道玉沢ICが開通する。向山古墳群公園が完成する。
2018 (平成30)	箱根八里が「日本遺産」に認定される。



■三島讚華の里

ミシマザクラ・ミシマサイコ・ミシマバイカモ

錦田には、一度は見てみたい花や木がある
お万様お手植えの梅の木
場所は不明ですが、
まぼろし？うわさで知る人がいる？千年杉
『金のなる木』の巨木になるように……
田園から望む風景は四季折々な趣があり、
歌人が最高とほめたところ……

ふるさと再発見

錦田地区＝語り継ぎたい郷土のこと＝

発行日：令和2年2月28日
印刷補助：三島市教育委員会
編集・発行：錦田郷土研究室



ミシマザクラ

国立遺伝学研究所の竹中要博士が、ソメイヨシノの起源を研究中に、その過程で生まれたものです。

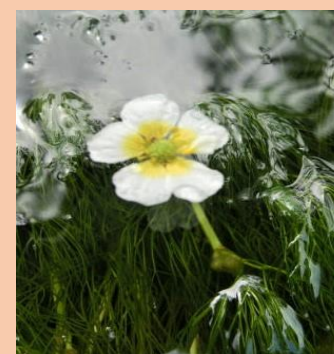
昭和38年に学名が付けられ、昭和46年三島市制30周年を記念して「市の花」に指定されました。

ミシマザクラは、三嶋大社境内、神門前の参道沿いに植えられています。



ミシマサイコ

セリ科の多年草、高さは30cmから130cm。葉は単葉で細長くて堅い。8月から10月に黄色の小さな花が咲き、日当たりの良い草原などにみられる。かつて三島地方に多産し、根を乾燥させて良質の漢方薬としたことから、ミシマサイコという名が付けられました。江戸時代には、三島土産として広く知られていました。



ミシマバイカモ

キンボウゲ科の多年生水生植物で、昭和5年楽寿園の小浜池で発見されました。市内の川や湧水池に広く自生していましたが、湧水の減少により昭和35年頃までに絶えてしまいました。

三島では市内の三島梅花藻の里、源兵衛川、楽寿園などで移植・育成・保護に努めて復活を図っています。

ふるさと再発見

錦田地区

＝語り継ぎたい郷土のこと＝

■錦田の成立

昭和16年(1941)4月29日に、錦田村と三島町が合併をして三島市が誕生しました。

もともと錦田村は、近世の村落が集まり、明治22年(1889)市町村制施行時に成立した村です。

この村名は昔、川原ヶ谷と坂五ヶ新田(塚原・市山・三ツ谷・笹原・山中)を併せて「錦ノ郷」、谷田ほか4村(御門・夏梅木・小山・竹倉)を「谷田郷」といったので、両郷の文字を組み合わせ「錦田村」と名付けられました。

■錦田の地勢

錦田村は、箱根西麓の丘陵地帯と大場川の東側の平地地および川西側の中地区とで構成されています。

錦田村の大部分を占める箱根西麓は、肥沃な関東ローム層という土で覆われているため、明治期以降に開墾が進み、ジャガイモ・大根・ニンジン・ゴボウなどの根菜類やハクサイ・キャベツ・レタスなどの野菜類が豊かに実ります。

また、平地地の大場川に流れ込む山田川・夏梅木川の流域は、豊かな水田が広がっており、竹倉地区には、箱根山麓から湧き出る湧水群と温泉があります。

昭和40年代(1965)以降に開発が進み、団地や観光施設などが建設されて急激に変貌を遂げました。

箱根新道(国道1号)の開通に伴い、関連道路も整備され、三島市街や三島駅が近くなり、宅地化も進み、初音台・小山台・桜ヶ丘・三恵台・錦が丘などの住宅地が形成されました。

■錦田の主な名所・文化・遺跡

歴史と貴重な文化財など特徴ある風俗・習慣が引き継がれている錦田地域は、四季折々の豊かな自然環境と伝統を守る住民により、さらなる発展が期待されます。

- ① 国指定史跡「山中城跡」の障子堀と畝堀
- ② 国指定史跡「箱根旧街道」の石畳と一里塚
- ③ 県指定史跡「向山古墳群」
- ④ 日蓮宗の本山「玉澤妙法華寺」
- ⑤ 三島七石「宝鏡院の笠置石」「山田川の鬼石」
- ⑥ 日本最長 富士を望む大吊橋「スカイウォーク」
- ⑦ 観光複合施設「伊豆フルーツパーク」
- ⑧ 碑文が刻まれた竹倉の「屏風岩」
- ⑨ 竹倉の湧水、温泉
- ⑩ 桜ヶ丘の桜並木
- ⑪ 国立遺伝学研究所の桜(毎年4月に一般公開)
- ⑫ 三島の冬の風物詩「大根干し」

はこねにしざか ごかしんでん
■箱根西坂と五ヶ新田

箱根西坂の坂五ヶ新田（西から塚原、市山、三ツ谷、笹原、山中新田）は元和年間（1615～24）に三島・沼津や近隣の村からの移住により設置されたといわれています。元和4年に三島宿・小田原宿からの移住者でつくられた箱根宿とほぼ同時期にできた集落です。旅人相手の休泊・運送業が主な産業で、経済的にも文化的にも豊かな村でした。明治中頃の鉄道開通以降は往来する旅人が減ったため、箱根山麓を開墾し、畑作を中心とした地域となり、いわゆる「坂もの」の根菜類の産地として世に知れるようになりました。

つかはら
■塚原新田

五ヶ新田のうち、三島に最も近い集落です。明治初期までは東海道を往来する人馬のための人足・茶店で潤っていました。古墳が多くあり、こうした塚が多いことから塚原の地名が生まれたといえます。

いちのやま
■市山新田

三島から登ってきて最初の山と言うことで一の山と名付けられ、“一”が“市”に変化したと伝わっています。五ヶ新田の中で最も水の便が悪かった集落です。しかし、「生水は飲むな」と戒められていたおかげで、伝染病にかかった人はいないといわれています。

みつや
■三ツ谷新田

五ヶ新田では最も大きな集落です。もとは「三ツ屋」といい、村内の「元茶屋」と呼ばれる地に、茶屋が三軒あった土地柄から名付けられたといえます。三ツ谷新田には「茶屋本陣」と呼ばれ、大名や天皇の休憩所として用いられていた「松雲寺」があります。

さきはら
■笹原新田

西坂の中で最も急な「こわめし坂」と呼ばれる坂を登り切った場所にある集落です。現在は石畳が敷かれている箱根旧街道（東海道）ですが、集落が成立した江戸時代初期には、石畳ではなく篠竹が敷かれていたこと由来して「笹原」という集落名がつけられたといわれています。

やまなか
■山中新田

五ヶ新田の中で最も高いところ（標高 580m）にある集落です。北西にある元山中の集落からの移住者が多かったため、「山中新田」と呼ぶようになったと伝わります。戦国時代、後北条氏の山城「山中城」が築かれ、落城後は廃城となりました。江戸時代に入り東海道の整備されると、箱根宿と三島宿の「間の宿」としてにぎわいました。



国指定史跡 山中城跡

石垣のない、空堀や土塁など土づくりの城で、地上に巨大なワッフルを置いたかのような障子堀が特徴です。街道をはさんで城が築かれ、関所の役割も担っていました。

城からの展望はよく開け、富士山や駿河湾、駿東の大半を一望のもとと見渡すことができます。



県指定史跡 向山古墳群公園

計 16 基からなる古墳群です。造られた時期は 3 世紀後半から 6 世紀後半で、三島市内では最も古い古墳群です。田方平野北部を支配していた「くに」の王（首長）の墓と考えられています。

古墳に上がり、古代人の生活の様子などに思いを巡らすひとときなど、いかがでしょうか？

かわはらがや
■川原ヶ谷

三島宿の東出口である大場川に架かる新町橋を渡った先にある東海道沿いの集落です。川原ヶ谷の愛宕坂を登ると、松並木が続く緩やかな道となります。この東海道の道筋は谷田との境をなしています。

また、当地区には山田・小沢・元山中が枝村として含まれます。これらの集落は、中世の箱根山越えの街道「平安・鎌倉古道」に沿ってできたといわれています。

なか
■中

中は、錦田の中で唯一大場川の西にある集落です。大場川と御殿川に挟まれた位置にあり、川と川の中間にあることから集落の名が起ったと考えられます。

この地は水利がよく、水田耕作に適していたため、弥生時代からの遺跡が多く残り、土器や水田跡が見つかります。また、平安時代には三嶋大社から南へ通じる下田街道が通り、この道を通って三島大社に通った源頼朝の逸話のひとつである「手無地蔵」の伝説が語り継がれています。

やた
■谷田

谷田はかつて谷田・御門・夏梅木・小山・竹倉で成り立ち、古くは「谷田郷」として知られていました。このうち竹倉村は江戸時代初期に独立しました。

谷田・御門の氏神である劔刀岩床別命神社（つるぎたちいわとこわけのみことじんじゃ）は平安時代の延喜式神名帳（全国の神社目録）にも載る古社であり、長泉寺の前身は弘仁2年（811）に開山した真言宗の寺と伝えられ、この地域は古くから人々が生活していた一帯だと考えられます。

たけくら
■竹倉

もとは谷田郷の1枝村でしたが、江戸時代初期に独立して村となりました。箱根山から湧き出す水に恵まれた土地で、稲作・畑作を行う農村であったほか、玄峰老師などの著名人に愛された温泉があることでも知られています。

たまざわ
■玉沢

もとは谷田郷に属し、大木沢と呼ばれていた地です。江戸時代初期に修善寺加殿にあった日蓮宗の名刹妙法華寺をこの地に再興するにあたり、「玉沢」と改称しました。玉沢は妙法華寺の移転と共に形成された村であるため、寺と住民は長く密接な関わりがありました。

■より詳しく調べるときに役立つ資料

- ・我等の郷土（田方郡錦田村自治会）
- ・中村誌稿（錦田郷土研究会）
- ・きき書き寄せ書き物語 三島の城跡（錦田郷土研究会）
- ・企画展 にしきだ村（三島市郷土資料館）等